

こども第三の居場所COCO-Z Annual Report 2023

ココれぽ vol.2



「今、この瞬間」を大事に

ここーずは、2021年9月に運営を開始し、2024年4月で3年目を迎えました。この3年間、公益財団法人日本財団様には、こども第三の居場所事業としてここーずの基盤づくりを支えていただきました。心から感謝申し上げます。この2024年4月からは、日本財団様からの助成期間を卒業し、大津町の児童育成支援拠点事業として運営を継続することが決まりました。さらにそこに、独自の取り組みもプラスしてここーずらしさを感じられるよう取り組んでまいります。

まだまだ未熟なここーずです。皆さんと一緒に今まで以上に試行錯誤していくかもしれません。それでも、これからの将来を担っていくこどもたちの「今、この瞬間」を大事に、もっとこどもたちに『できることを、できるだけやりたい』という想いは今まで以上に溢れています。ぜひ、2024年度のこども第三の居場所COCO-Zも、皆さんのお力を貸していただけると幸いです。本年度もよろしくお願いいたします！



理事長 江口 竜一

NEWS



MORIUMIUS オンラインプログラム開始

日本財団さんご支援のもと、毎月1回の通年のプログラムを開始。『こどもたちが自分らしい未来を描けるように。地球や日本の自然が少しでも豊かさを保ち続けられることを感じ学ぶプログラム』。いつも食べているのはどのような生き物？どこでだれが作っている？どうやって食べる？そんなことを宮城県石巻市にあるモリウミアスとつながり、季節を感じながら産地や食材と向き合い、美味しい料理を作って食べます。



『ここ活動』で ゲーム交流会をスタート

ここーずに来たいと思ってるけど、なかなか一歩を踏み出せない、そんな子が「ここーずで楽しいことやってみたいだから行ってみようかな」と思ってもらえるきっかけになれば。得意なことをみんなで共有できる場を作りたい。ゲームを通して、人との繋がりを持てるような場になれば。そう願いを込めて、ゲーム交流会を始めました。

2023.4



朝・昼利用登録者向けに 『ここ活動』をスタート

ここーずはいつでも自由に使える場所、ではあるけれどきっかけがないと行きづらい…なんていう声もありました。そんな声をもとに、ここーずに行ってみたいと思える日を作り、料理、おでかけ、工作などに挑戦しました。

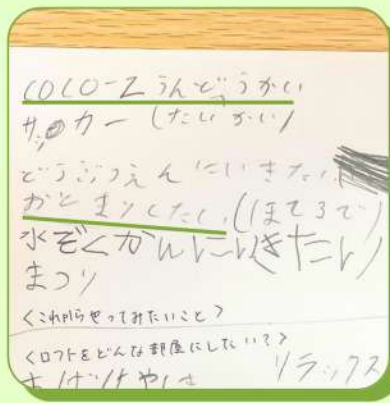
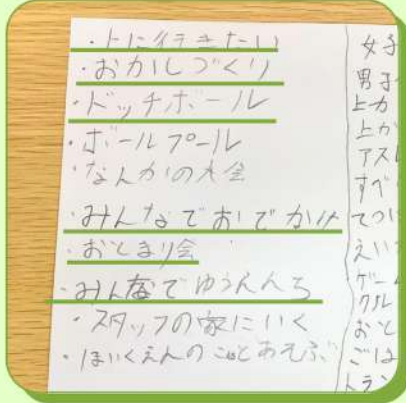


ここーずで初めての宿泊体験 「国立阿蘇青少年交流の家」へ

小学1～6年生、総勢17名と一緒に過ごした1泊2日。思いっきり遊んで、みんなでごはんを食べたり、お風呂に入ったり。非日常だからこそいろんなことに挑戦しているこどもたちの姿を見ることができました。

みんなの声を実現！

ここーず大会議2023で
こどもたちに意見を出
してもらいました！



上に行きたい

→ ロフトを使えるように改修工事を行い、こどもたち自身で使う際のルール決めを行いました。

おかしづくり

→ 今年度は、みんなで
・大学芋
・メレンゲクッキー
・スタンドグラスクッキー
などを作りました♪

みんなでゆうえんち

→ 秋休みに、みんなでバスに乗って、『グリーンランド』へ！
集合時間と集合場所を伝えて、あとは自由行動。こどもたちだけで、考えて行動しつつも時間いっぱい楽しんでいました。

・ドッチボール ・おとまり会 ・COCO-Zラウンドかい

→ 2023年6月17日(土)・18日(日)
1泊2日で阿蘇青少年交流の家へおとまり。みんなでドッチボールをしたり、ミニ運動会をしたりして楽しみました。

みんなでゲーム

→ この活動の1つとして、ゲーム交流会を開始！ゲーム内容もこどもたちと相談して決めています♪



ロフトの安全のための 改修工事完了！

こどもたちから「ロフトを使いたい」という要望を実現するために、安全柵を取り付ける改修工事を行いました。ロフトには、今は特に物はなく、こどもたちに聞きながら空間づくりをしていく予定です。



第2回こどもマルシェ 開催しました

こどもたちの声を反映したイベントをしたいと思い開催をはじめて2回目を迎えました。今回は全体で売上目標を決めましたが、目標も大幅に達成。地域の子たちにも遊びに来てもらえ、大盛況となりました。

2024.3



宮城県雄勝町にある MORIUMIUSへ

毎月1回行っているオンラインプログラムの学びをより深めるために、3泊4日(前泊含む)でMORIUMIUSへ。MORIUMIUSは、豊かな海と森に囲まれ、自然と共に生きる暮らしを通して、こどもたちの好奇心や探求心を刺激する複合体験施設。「自然の中で循環する暮らし」を体験しました。



こどもマルシェ実行委員会 立ち上げ

自分たちで考えて実行できた時の達成感を感じてほしい！そんな経験を積み重ねてほしい！そんな想いから、実行委員会を立ち上げました。こどもマルシェを、今年だけのイベントで終わらせず、来年も、また再来年も…そうやって続けていく中で、今高学年の子が低学年の子のあこがれの対象となったり、自分自身の声が反映されていくことでやりがいを感じたりできるイベントになっていくことを願っています。

どんな状況の子でも行きたいと思ったときに行ける居場所へ

朝・昼の利用は登録制にはしていますが、利用登録なしでも利用できるほうかごタイムを導入し、放課後の利用人数も増加しました。朝・昼の利用登録者は、学校に行きづらさを感じていたり、学校に行かない選択をしている子が大半です。ですが、日頃はほうかごタイムを利用している子ども、「今日は学校行きたくないんだ〜」と言って、朝～昼過ぎにかけてふら～っと来ることも多々ありました。緩やかな環境と、日頃からのほうかごタイムの利用による安心感などから、こーずは頼ることができる場所だと思ってもらえ、『学校は行きづらいけど、こーずには行こうかな』と思ってもらえる環境になってきました。どんな状況の子でも、行きたいと思ったときに行ける居場所でありたいという、居場所づくりを始めた当初の想いがカタチになってきました。



居場所

2023年度COCO-Z延べ利用者数
3,997人



◆ OPEN ◆
【月・水・金】 9:00～18:00
【火・木】 12:00～18:00
*毎月第三土曜日はイベント開催

◆ 利用料 ◆
無料

◆ 登録 (朝から利用可能) ◆
・学校に行きづらさを感じている子
・学校に行かない選択をしている子 等

◆ ほうかごタイム (放課後から利用可能) ◆
一度おうちに障りランドセルを置いて遊びに来ることができる時間(登録不要)

◆ 対象 ◆
小学生・中学生・高校生



お部屋カード



気分やしたいことによって、使う部屋を変えられるように、お部屋カードを導入。メインの部屋の人数が多くなってきたら、それぞれで分散して過ごしています。

みんなで食べることで、より楽しく、よりおいしく

2023年度もたくさんの方に地域食堂・子ども食堂を利用していただきました。地域食堂は、0歳～保護者さんまでみんなで夜ごはんを食べ、使った食器は自分で洗って片づけるまで。夏休みの子ども食堂は、メニュー決めから後片付けまで。「家では苦手なものが出てても食べないのに、こーずではなぜか完食するんです!」「家では洗いや掃除もやってるところを見ないけど、ここでは率先してやってびっくりしました」という声もいただきました。



地域食堂

地域食堂延べ利用者数

470 人 / 12回

子ども食堂延べ利用者数

388 人 / 9回



子ども食堂

◆ 開催日時 ◆
【地域食堂】 第1金曜日18:00～20:00
【子ども食堂】 第3土曜日 12:00～13:00

◆ 対象 ◆
どなたでも

◆ 利用料 ◆
無料
※大人の方は活動支援寄付金へ1口200円～ご協力をお願いしております。

◆ 申込 ◆
こーず公式LINEで申込期間・申込方法等お知らせしております。

いろんなことに挑戦できる機会を

「体験」したことが「経験」となって自分自身の中で積み重なっていき、価値観の形成につながったり、自信につながったり、自己肯定感・自己効用感につながっていきたりと考えています。ここーずに来てくれている子には、いろんな体験をして、経験として積み重ねてほしいなという思いから、2023年度もいろんなことに挑戦できる機会を提供し、たくさんの方が体験活動に参加しました。



体験活動 延べ参加者数

約 **230** 人

日本財団さんの体験活動の助成金を活用させていただき、たくさんの方の機会を提供することができました。

<2023年度の体験活動内容>

MORIUMIUSプログラム（月1回のオンラインと2泊3日の宿泊体験）、湖池屋工場見学、ここーず楽校（宿泊体験、オリジナル時計作り）、かわあそび、グリーンランド、遠足@オズの森、フラッグハント体験、こどもマルシェ 等

地域の方にここーずを知ってもらうために

延べ23店舗というたくさんのお店者の皆様のご協力のおかげで、2023年度もここーずマルシェを5月と10月に2回開催することができました。「ポストに入っていたチラシを見てきました」「大津にこんな場所があるなんて知りませんでした」と声をかけていただき、ここーずのこれからの可能性を感じた瞬間でもありました。こども達に知ってもらうだけでなく、地域の大人の方たちにも知っていただけるよう、これからも、幅広い年代の人たちが楽しめるここーずマルシェを開催していきます。



全ここーずマルシェ来場者数

約 **480** 人



思いやりを繋ぐ拠点へ

みんなのパントリーの受取に関して、毎日受け取れていたものを、2023年度の途中から週に1度の受け取りに制限しご不便をおかけいたしました。いただける物資の量が減っておりなかなか厳しい状況が続いておりますが、個人の方からInstagramのダイレクトメッセージやお電話でお問合せくださり、持って来て下さることも多く、たくさんの方の思いやりを感じ、そんな思いやりをたくさんの方に繋ぐことができた1年になりました。

みんなのパントリー
年間延べ利用組数

約 **433** 組

<受け取った方からのメッセージ>

利便は高いので、とても助かります!!
ありがとうございます!

大活躍に利用しました!
ごほうび等もらえてよかったです!
また利用させてください!!

すごく助かります。
いつもありがとうございます

制服スカート、助かります。
ありがとうございました。

User's voice

～利用者さんの声～

2024年1月16日(火)～2月9日(金)の期間で、ここーず利用者アンケートを行いました。保護者の方から率直なご意見をいただき、あまり大々的には言っていなかったけどここーずとして大事にしていた部分について、こどもたちを通して伝わっていたんだなと目頭が熱くなるものもありました。嬉しく感じるとともに、皆さんのお力のおかげで運営できていたことを実感できました。そのご意見の中から一部をご紹介します。

・穏やかな温かい場所
・最後の頼める場所
・救世主

子供達の祖父母は遠方に住んでいるので、ここーずは家でも学校でもないけれど、安心できる居場所です。

あなたにとってここーずとは？

子供にとって安心して通える。通わせられる居場所。

家とも学校とも違う、いつでも自分の意志で行きたいときに行って、自分の存在を受け入れてくれるスタッフやお友達がいる心温まる居場所。

お友達と楽しくリラックスして過ごす中で、子どもの自分でやる力が自然と育つ場所。

子供達が楽しめるイベントが沢山あり、内容も様々でどのイベントも行きたい！と思わせてくれるような内容。普段もみんなで遊べるゲームやおもちゃが豊富にあり楽しい。

核家族ではなかなか体験できないことがある

楽しいし、嬉しいことがたくさんあるんだと思います。

リピートしたくなる理由

スタッフの皆さんの温かさ。

こどもの大好きな友達がいるから。スタッフが優しく、それだけでなく子どもたちにプロの対応をしてくれるから。

室内でアットホームな感じ

・学校に行けるようになった。
・色々なお友達ができました。

笑顔が増えた。

自分のことは自分でできるようになった。自分のことだけでなく、みんなに伝えるために、納得してもらうためにはどうしたら良いか考えるようになった。

家以外で自分のやりたいことができるということは、やりたいことが見つけられる子供になると思いました。

保育園と併設しており、子供の事を理解してもらえてる気がする

家や学校から近く、学年と同じところが運営しているのが安心感がある。子どもたちが利用してみて、居心地が良くまた行きたいと自分から言うため。

ここーずを選んだ理由

第三の居場所がほしかったから。色々な経験をしてほしいから。

LINEでイベント等の開催日時のお知らせがいただけるので

仲良しのお友達がいるから。

学年や性別関係なく関わるができるようになった。色々な経験や体験を通して積極性が出てきた。

家族以外の方に自分の気持ちを見せられるようになってきたことです。あと、親がいなくても自分達だけで行動できることが喜びになりました。

利用してからのこどもたちの変化



COCO-Z が大切にしていること

今まで、「COCO-Zとは…」ということスタッフ間で話し合っていたものの、はっきりとした方向性を見いだせずにいました。2024年度は、日本財団様からの助成を卒業し、自立しなければならない年になります。そのため、このタイミングで、これまでの活動を振り返りながら、今後どのような想いを持ってCOCO-Zを作り続けていくかについて、スタッフで話し合いました。

”スタッフの想い×子どもの権利条約”

まずは、COCO-Zで大切にしている（大切にしたいと思っている）ことを書き出して、それぞれ出てきたものをグルーピングすると、5つに分類ができました。現状を確認・共有し、それを子どもの権利条約の4つの原則（命を守られ成長できること、意見表明し参加できること、子どもにとって最もよいこと、差別のないこと）のどれがあてはまりそうかを考え、以下ようになりました。

子どもにとって最もよいこと

- ・色んな考えがあってあたりまえ
- ・子どもも大人も1人の人
- ・個人
- ・多様性を認め合う
- ・決めつけない、裁かない
- ・スタッフ=先生ではない
- ・ななめの関係性

子どもにとって最もよいこと

- ・何をしても、しなくてもいい
- ・なにかをしても、しなくてもいい空間
- ・学校に行っている、いないにとらわれない空間
- ・子どもの居場所にする
- ・笑いがあると楽しい
- ・人格を否定しない
- ・素を出せる雰囲気・環境

意見表明 子どもにとって最もよいこと

- ・子どもの想いを大事にする
- ・子どもが自分で選択できるということ
- ・自己決定（考え行動する）
- ・教育・指導するのではなく、選択肢を例示し子ども自身が気づいて考えられるような対応
- ・子どもの声を反映
- ・自己肯定感を得られる
- ・自己効用感を得られる

命を守られ成長できること

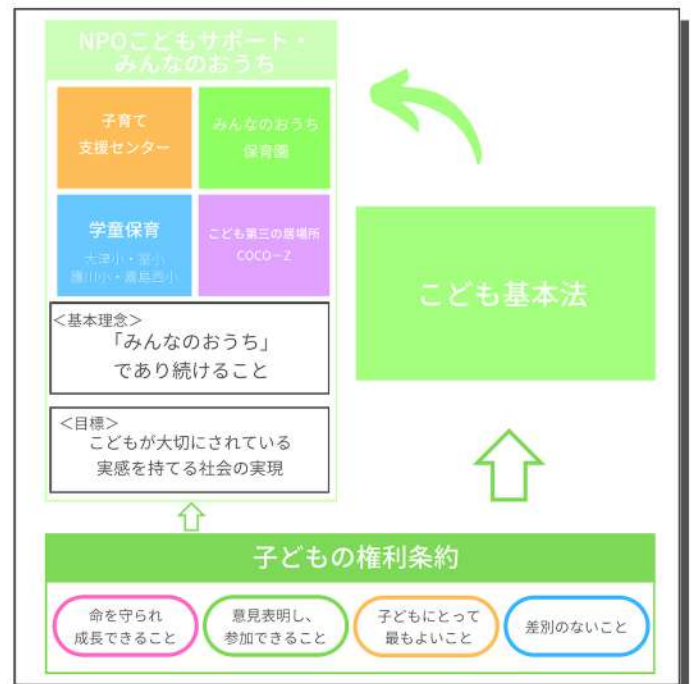
- ・いろんな機会をつくる
- ・体験活動
- ・食育（生活）
- ・経験ができる場所

差別のないこと

- ・誰でも利用できる
- ・フラットと入ることができる空間
- ・幅広い年齢の人と交流できる空間・機会
- ・保護者さん同士も話せる・交流できる場

”NPOとしての基本理念等の位置づけから、見えてきたこと”

そもそも、子どもの権利条約とは、世界中すべての子どもたちがもつ人権（権利）を定めた条約で、1989年に国連で採択され、現在194カ国が批准しています。日本では、子どもの権利条約の精神に則り、子どもの権利が守られる社会の実現を目指す「こども基本法」という包括的な法律が2023年4月1日から施行されました。また、子どもの権利条約とこども基本法、そしてNPOこどもサポート・みんなのおうちの基本理念・目標とを照らし合わせていくと、子どもの権利条約をもとにこども基本法が作られており、同じく子どもの権利条約をもとにNPOこどもサポート・みんなのおうちの基本理念・目標があることが見えてきました。

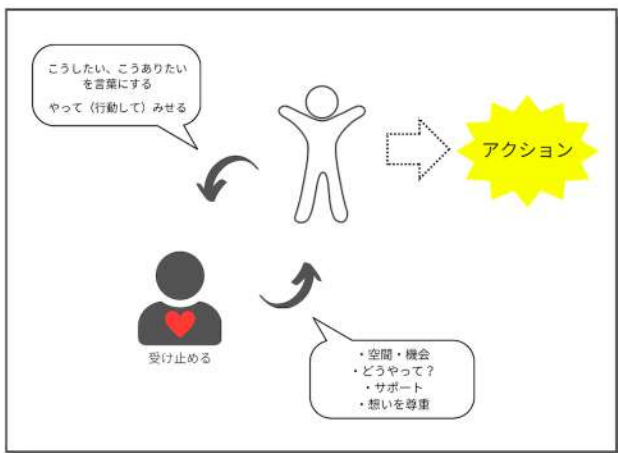


”COCO-Zが目指す方向性”

ここまでは、スタッフの想いがどのような位置づけにあり、基本的な子どもたちに関する考え方（条約・法律・基本理念等）との関係性をみてきたことで、スタッフの想いが様々な条約・法律・基本理念等の上にあることが分かってきました。その上で、ここーずの核となる基本理念は何だろうと考えていくと、『意見表明を受け止め、選択することを保障する』ことにたどり着きました。

”『意見表明を受け止め、選択することを保障する』とは”

意見表明と聞くと、すごく難しいように聞こえますよね。ですが、意外と意見表明は身近なことではないかと思っています。例えば、意見表明と聞いて、皆さんが想像するような改革をおこなうために生徒会に立候補すること・手を挙げて意見を発表することもあります。ですが、こーずでは、ただ日常生活の中で、ああしたい、こうしたいを言葉で伝えたり、言葉で伝えられない段階でも行動でこうしたいんだと示していることも、意見表明の一つだと考えます。このような意見表明をすることで、誰かからその意見表明を具体的に可能にするためのアドバイスをもらうこともあるでしょう。そのアドバイスを聞いたうえで、どうするかは本人次第。そのアドバイスを聞いてみるもよし、自分の考えだけでやってみるもよし。



そんな環境を作っておくことで、なんとなく、ここは自分を受け止めてくれる場所なんだと感ずることができるのではないかと考えています。では、具体的には、どのようなことをしていくことでこのような環境を作ることができるのでしょうか。その点について、スタッフから出てきた内容が、以下の通りです。

こどもとの関わり方

ぎりぎりナナメの関係を築く

→横一線にも見えない関係ではあるけれども、タテでもヨコでもないナナメの関係であることで、普段からなんでも話しかけ、意見表明しやすい雰囲気醸成する

- ex) ・名前・ニックネームで呼びあい、存在を承認しあう
- ・フラットに対等に会話する
- ・日常と一緒に過ごすことでお互いの信頼関係を築く
- ・必要であればボディタッチ(愛着につなげる)をする

※愛着は、対人関係の重要な基盤であり、将来の生き方にもかかわってくるものとされています。

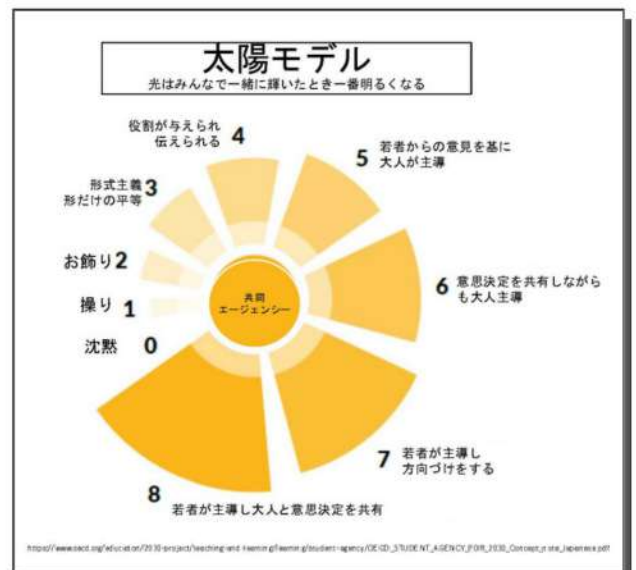
※タテの関係：親と子、先生と生徒、先輩と後輩のような上下関係
 ヨコの関係：同級生や友人知人、チームメートのような平等な関係
 ナナメの関係：地域の大人のような直接的に利害関係のない他者との関係

ナナメの関係であるからこそ、新しい価値観と出会うことができ、そこでさらに自分の中で整理し納得できたとき、じゃあこうしよう!と思い、そこからアクションすることができるのかなと考えています。だからこそ、ぎりぎりナナメの関係を築くことが大切になってくると考えています。

”みんなで作り上げてきた こども第三の居場所COCO-Zの3年間”

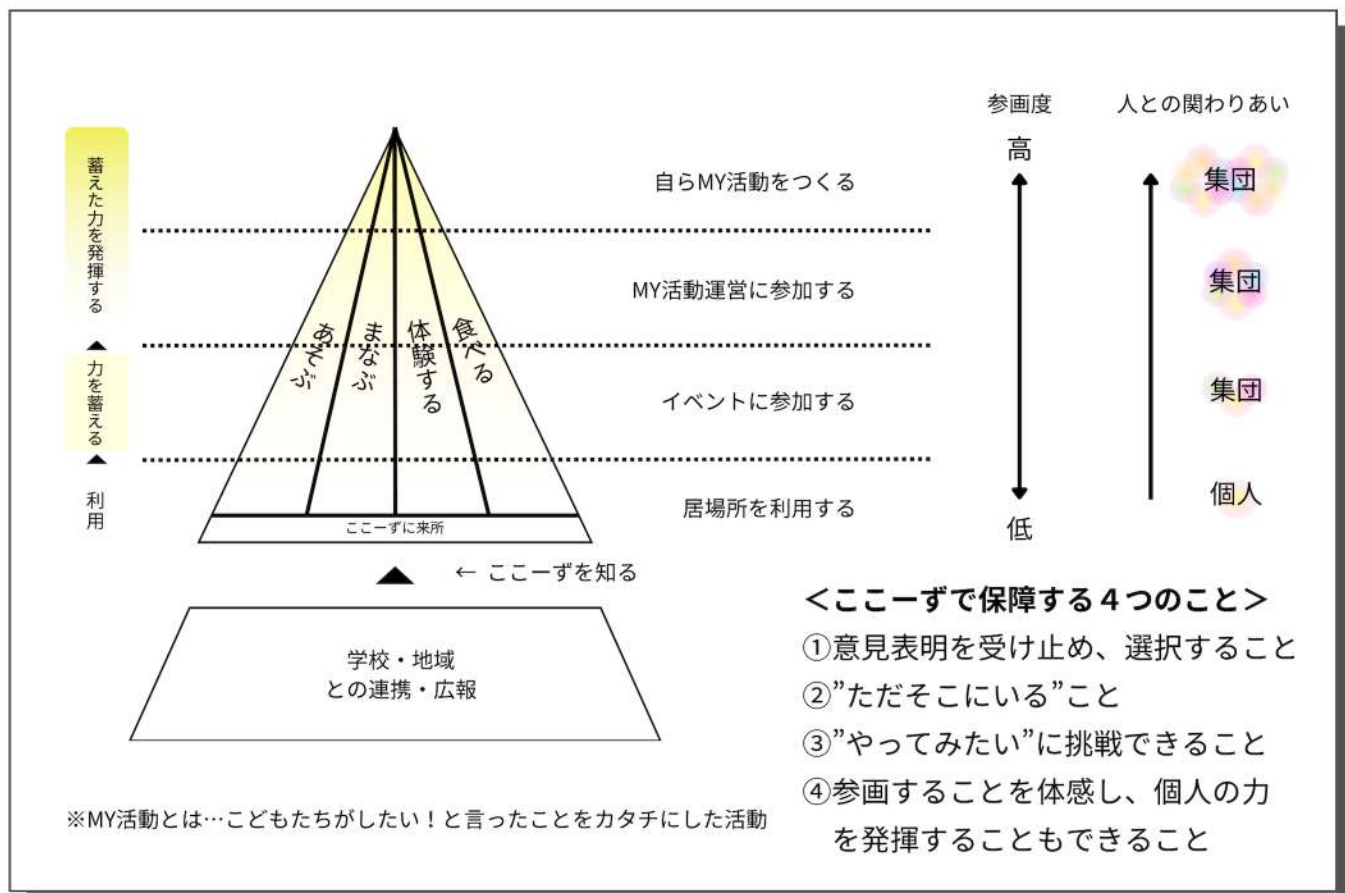
こども第三の居場所COCO-Zは、立ち上げからの3年間、日本財団さんからの助成のもと運営を継続してきてことができました。この3年間を振り返ると、想いをもって立ち上げたものではありませんが、最初から現在の全てがあったわけではなく、こどもたちと一緒に様々な活動をしてきた中で、こどもたちから気づかされることも多くあり、そのこどもたちから気づかされたことから、こーずというものが形作られてきたのだと感じています。当初は、こどもたちが来てくれるにはどんなことをしようかなと考えイベントを計画していましたが、徐々に来てくれる子たちが増えていくと、スタッフが「なにしたい?」と聞いて「〇〇したい!」と言ったことを実際にイベントにしてみるようになりました。そして、最近では、こどもたちから「みんなで〇〇〇したいんだけど、どうしたらいいかな」と言ってくれることも増え、こどもたち発の活動も増えてきました。

そんな時に、スタッフの1人みさつちが、こども家庭庁の「こども・若者支援研修〜地域における多様なアプローチを学ぶ〜」という2泊3日の研修に参加しに東京まで行く機会がありました。その研修では、今までこーずで大事にしてきたけど言語化できていなかった部分を、理論として学びなおすことができ、また新しい「ユースワーク」というものに出会うことができました。その研修の中で出てきた太陽モデル(こども・若者の参画の段階)と、こーずで行ってきた活動を重ね合わせると、ぴったりと太陽モデルの段階を追っていることが見え、こーずの現状としては、『4 役割が与えられ伝えられる』『5 若者からの意見を基に大人が主導』『6 意思決定を共有しながら大人主導』の段階にあるのかなと考えています。いずれは『8 若者が主導し大人と意思決定を共有』する段階までいけるような子も出てくるんじゃないかと思っています。



この太陽モデルに完全に沿うことが重要ではありませんが、こどもたちがやりたいことを実現できるようになるために、スモールステップでも段階を追って成長していくことが大事になると感じています。スモールステップでも成長できるためには、少し年上の子をロールモデルとして真似してみることから始まるでしょう。そんな風に、やりたいことを実現できるようになるような成長の循環を作ることができるよう、こーずでは「こーずのきほん」を作りました。

「ここーずのきほん」



まず、「ここーずでの参画とは」について知ってもらうことが必要かもしれません。「参画」と聞くと、社会貢献的な大きい規模の意味合いをイメージする方が多いと思います。ですが、ここーずでの「参画」は、もっと身近な子どもたちの目に見える範囲の、さらに子どもたち自身も関わっている事象に使っています。「〇〇をしたいから、どうしたらいい？」とやりたいことを実現するために誰かに協力を求めたり、みんなが納得できるように対話したり、時には交渉したり…とコミュニケーションをとって行く中で、ここーずに対しても、また子どもたち同士でも影響を与えていくでしょう。この過程全般のことを「参画」としています。現在は、ここーずという小さな場所での経験ではありますが、成長していくことで、少しずつ子どもたち自身のコミュニティが広がっていくのと同時に蓄えた力を発揮できる範囲が広がっていき、ゆくゆくは自分自身が住んでいる地域に対して参画していくこともあるかもしれません。

そんな風に、子どもたち自身のやりたいことをここーずで発揮していくまでの過程を示したものが、「ここーずのきほん」になります。この「ここーずのきほん」のように、子どもたち自身がやりたいことを実現できるよう蓄えた力を発揮できるようになるために、まず①意見表明を受け止め、選択すること、②”ただそこにいる”こと、③”やってみたい”に挑戦できること、④参画することを体感し、個人の力を発揮することもできること、の4つを保障し続けます。この4つを保障し続けていることで、子どもたちの状況に応じたそれぞれの段階でのここーずの利用、またそれぞれの段階で力を発揮することにつながっていくと考えています。誰もが同じ段階にいる必要はなく、多種多様な人がいることが大事であり、そういう多種多様な人と関わりあいながら、イベント等でいろんな体験をして経験を積み重ねていきながら、またお互いが過ごしやすい環境づくりを個々人が意識しながら過ごしていくことで、いろんな力を蓄えていくと考えています。この蓄えた力を段階を追って発揮できていくと、自分だけのことで

なく、他者のことも考えられるようになっていたり、いろんな他者とコミュニケーションをとることができるようになっていたり、またやりたいことを実現できたことによる達成感から自信につながり自己肯定感・自己効用感を得ることもつながっていくと考えています。

こんな風に、「ここーずのきほん」として作成しましたが、ここーずを利用する全ての人がこうならなければいけないものではなく、それぞれの力が発揮されお互いに影響を与えながらもそれぞれが居心地の良さを感じられる居場所であることが大事だと考えています。今よりよくなることも大事ですが、ここーずでは何よりも「今、この瞬間」を大事にしていきたいと考えています。今を大切にすることができれば、子どもたちはその瞬間満たされます。この瞬間を重ねていくことで、どんどんゲージが満たされていき、少し自信が出てきたり、自信が回復してきたりするでしょう。このように、まずはそういうゲージを満たしていくような日常が大事で、このゲージが溜まっていくと、次の段階の「なにかに挑戦すること」につながるでしょう。この何かに挑戦することが、ここーずで開催しているイベントになることもあるでしょう。そして、ここーずでのイベントに何度も参加して、力を蓄えていき、もっとこんなことがしたい！と思うようになったときに、今まで蓄えてきた力を発揮できるようになる子がでてくることもあるでしょう。

以上のように、ここーずを利用することもたちに気づかされながら、またみんなで試行錯誤しながら、運営してきたここーずでしたが、この3年間から、今後のここーずとして大事にしていきたいことが見えてきました。今後も、ここーずを利用してくださっている子どもたちのことを第一に考え、できるだけすべての人が「今、この瞬間」、心地よく過ごすことができる居場所としてあり続けることができるよう、運営をしていきたいと思っております。今後も、みなさんとともに成長し続ける居場所であり続けられるよう、お力添えの程よろしくお願いいたします。

From now on これからこころずが目指していくこと

2024

こどもミーティング(仮)
開始

中高生向けの
不定期の居場所づくり

『もっと、こどもたちの声が反映される居場所でありたい』そんな想いから、こどもミーティング(仮)を始めます！こどもミーティングとは、こどもたちのやりたいことをカタチにするための作戦会議。次のこども食堂するとき、みんなでこんなことしたいな～、放課後にこんなことしたいな～、もっとこんなものあるといいな～なんて内容はその時々。でもゆる～っと、楽しく意見表明できる場を作りたいと考えています。

まずは、定期テスト期間に合わせて2週間程度という期間限定で地域の公共施設を借りて、無料で利用できる学習スペースとしての居場所を作っていきます。この新しい居場所作りのためのクラウドファンディングにも夏ごろに挑戦予定です！応援よろしくお願いたします。

2024.4～

大津町の児童育成支援拠点事業として運営していくことが決定

20XX

大津町内各小学校校区に1つの居場所を常設

中高生向けの居場所の常設化

Partnership

沢山の方に支えていただいています。

2023年度は、右上の写真のものを支援していただきました。みなさまからのご寄付や助成金に支えられ、どんな状況の子でも心地よく過ごすことができる居場所としての活動を継続できています。

活動支援寄付金

17,717円



地域食堂・こども食堂の食材費として使用しました。

地域食堂やこども食堂、その他イベント時に活動支援寄付金BOXを設置しています！ぜひご協力ください！

ご支援くださった助成金団体

公益財団法人 日本財団

- ・こども第三の居場所運営費
- ・体験活動費

加盟団体

一般社団法人 熊本県子ども食堂ネットワーク
認定NPO法人 おてらおやつクラブ

家庭菜園で作りすぎちゃって、食べきれない分はいつも畑に捨てていたけど、作ったものを地域食堂やこども食堂を通して大津町のこどもたちに食べてもらえて、さらに笑顔になってくれるなんて嬉しいです。もっと頑張ろうと思えました。(大津町Tさん)





ご支援の方法は様々あります

食材

第1金曜日

第3土/日曜日

地域食堂・こども食堂
で使用します！



食堂開催日の1週間前ぐらいから
持って来ていただけるととても助かります。
【規格外品でも全然大丈夫です！】

物品

みんなのパントリー
に置いて、必要な方へお届けします！



おかし



缶詰・レトルト
などの食品等



洋服・制服

平日9～18時の時間内に持参して
いただくと助かります。

寄付



こーずに設置している
活動支援寄付金BOXへ
直接募金する



クレジットカード決済
で寄付する



こども第三の居場所COCO-Z Annual Report 2023
(2023年度年次報告書)

〒869-1234 熊本県菊池郡大津町引水52-1
TEL.096-321-7002 / coco-z@ouchi.or.jp

🏠 <https://ouchi.or.jp>

📷 cocon_ozu ✖ @coco_z2021